

シンポジウム 2

「希望をつなぐ終末期緩和ケア」の残したものの

座長 西村 正二

平成22年度日本プライマリ・ケア近畿地方会のメインテーマは、安心して暮らせるコミュニティのため、医療・保健・福祉が、今後いかに連携していくかを考えて、『希望としての地域医療連携とケア』でした。わが国は超高齢社会を迎え、市民の医療や福祉に対する期待がますます高まっている時、シンポジウム2は、テーマの主旨から、「希望をつなぐ終末期緩和ケア」としました。

シンポジウムは、最初に、日本ホスピス・在宅ケア研究会代表の大頭先生から、現在と将来のわが国の終末期緩和ケアについて基調提起して頂きました。最初のシンポジストは、実際に、がん末期の娘さんを自宅で看取った市民からの報告と問題提起をしてもらいました。それを受けて、病院から在宅や施設への流れで、終末期緩和ケアを実践し、地域医療・地域ケアの現場で活躍している多職種のシンポジストの報告を基に在宅や福祉施設における終末期ケアの現状と課題について報告してもらい、特別講演お願いした、奈良県医療政策部長の武末文男先生、播磨町役場の延安雅子さんにコメンテーターをお願い致しました。

パネルディスカッションは、まず、緩和ケアにおける当地域の連携の問題や課題に始まり、現在確立出来ている成果を大事に、今後更に連携を発展拡大していくことで意見を一致することができ

ました。後半の討論では、高齢化が着実に進展していくと、長期の医療と介護が必要な治癒の望めない高齢者退行性疾患が今後増えていくことで、80歳以上の「後期高齢者」の死亡が急増する時代を迎えるとの認識を共有できました。そして、今後は“長期にわたる介護の延長線上に死の看取りがある”ような姿のターミナルケアないし緩和ケアが増加していくという認識に立って討論を深化させることができましたと思います。

今後の地域医療においては、医療と共にケアも大変重要であり、終末期緩和ケアを含む高齢者介護を地域社会全体で支え合うことの必要性について意見の一致得られたと考えます。今回のシンポジウムで、これからは医療・介護・福祉を含めたより包括的なターミナルケアが重要となり、その為の具体的な体制づくりという方向を打ち出すことができたと思えます。

福祉と医療に分かれている現状の制度を地域の実情に合わせて再編成し、地域の保健・医療・福祉を総合的に展開する効率的で全人的な社会的支援システムを構築していくことが、今後、最も重要な課題だとの結論に至ったと考えます。それが地域住民にとっての最も大切な希望であると信じます。このことは、今回の学会が果たした大きな役割だったと思えます。



シンポジウム2 演者



シンポジウム2 司会